

ICT活用モデル工事（試行）のアンケート調査（まとめ）【受注者回答】

令和7年（2025年）9月建設管理課

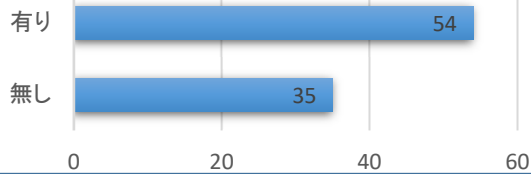
【対象】 令和6年度(2024年度)に完成した工事（過年度発注のゼロ区・ゼロ道・補正線越を含む）

【回答】 89工事（54件が過去にICT活用施工実施工事を実施済み、35件が未実施）

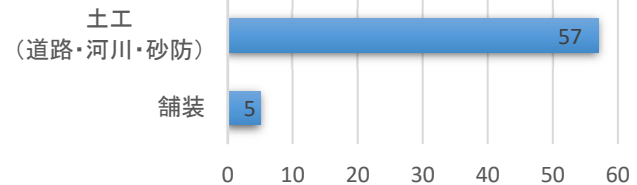
【結果】

- ICT建設機械及びICT関連技術者
自社が所有の機械や技術者は、半数以上がリースや外注となっている。
- ICT施工の定量的評価
内業の事前準備段階以外の全ての工程において作業員や日数は縮減している。
全般において、内業・外業を合わせた全体の比率で63%と、従来施工に比べて、施工効率化と労力軽減が図られている。過年度アンケートの定量的評価がR4：59%、R5：64%、R6：63%と年々施工効率化と労力軽減がされていることがわかった。

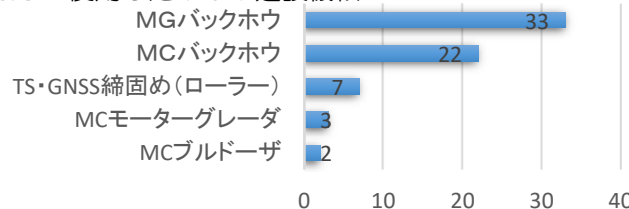
Q1：モデル工事の実施有無



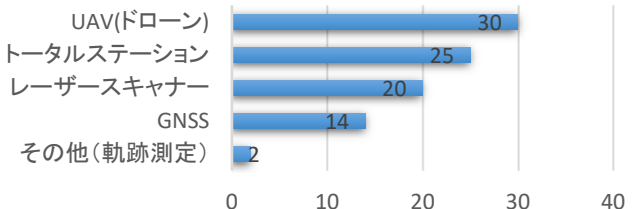
Q2：モデル工事の実施状況



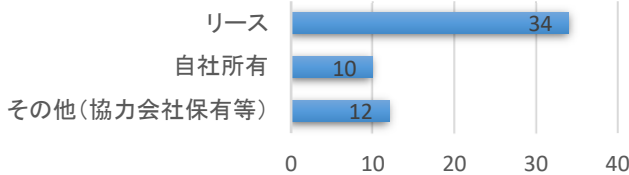
Q3：使用したICT建設機械



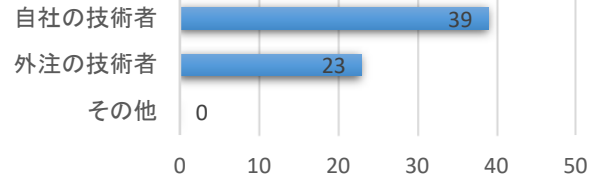
Q4：活用計測技術（重複あり）



Q5：ICT建設機械の調達方法



Q6：ICT関連の技術者（重複あり）



Q7：ICT施工の定量的評価

※ICT施工について、従来施工に対する各項目の比を算出し、回答のあった工事の平均値を表にまとめたもの

	内業	外業
事前準備段階	日数: 99%	日数: 55%
	人工(主作業員): 94%	人工(主作業員): 54%
	人工(補助作業員): 94%	人工(補助作業員): 44%
施工段階	日数: 66%	日数: 66%
	人工(主作業員): 61%	人工(主作業員): 54%
	人工(補助作業員): 63%	人工(補助作業員): 55%
提出書類作成段階	日数: 70%	過年度の平均値(参考) R4: 内業 56%, 外業 62%, 全体平均値 59% R5: 内業 37%, 外業 72%, 全体平均値 64%
	人工(主作業員): 69%	
	人工(補助作業員): 48%	
平均値	内業: 74%	外業: 53%
	全体平均値: 63%	

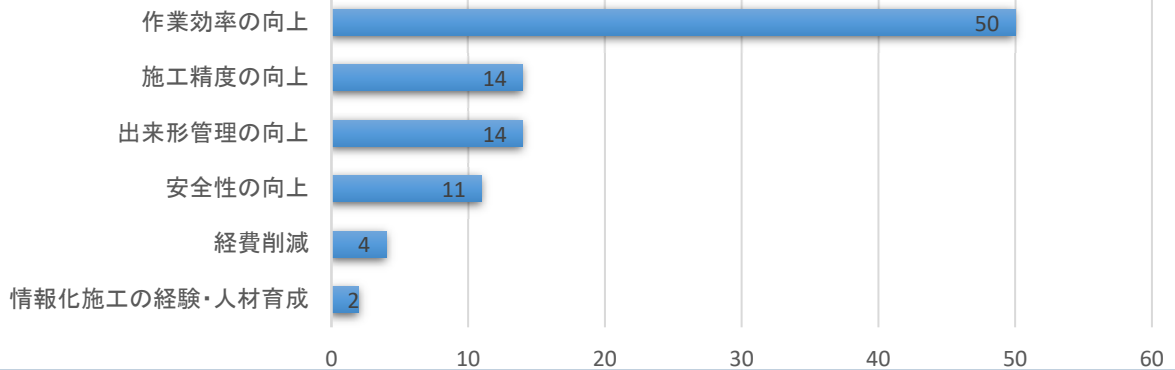
ICT活用モデル工事（試行）のアンケート調査（まとめ）【受注者回答】

令和7年（2025年）9月建設管理課

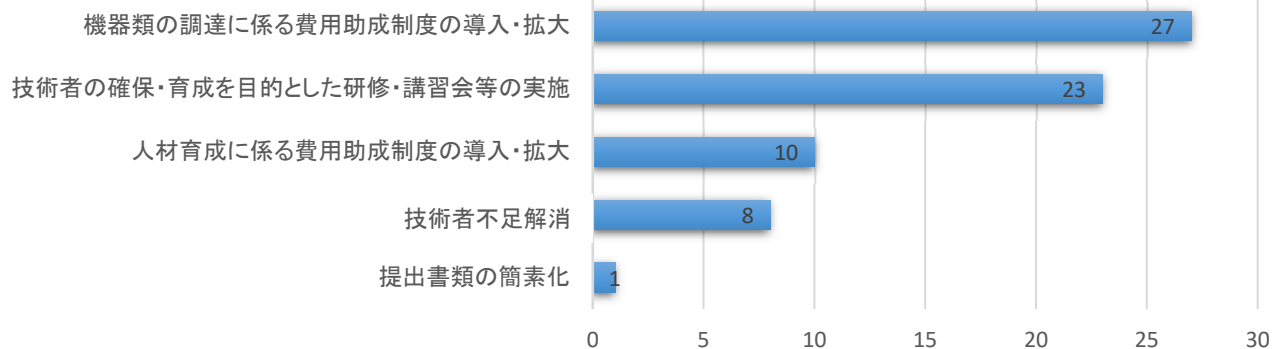
【結果】

- ICT活用工事においては、作業効率の向上にかかるメリットが最も大きい。また、施工精度や安全性の向上にメリットがあると感じている回答も見られた。
- ICTの普及に必要なこととして、機器調達・人材育成の費用助成制度の導入拡大が最も多く、続いて、技術者への研修や講習会の実施が多い結果となった。
- ICT活用モデル工事を実施しなかった理由については重機等のレンタル費用が高く、技術者が確保できないとの理由が多かった。
- ICT活用モデル工事未実施回答者の82%が、今後ICTの積極的な取組みを考えている・検討するとの回答。

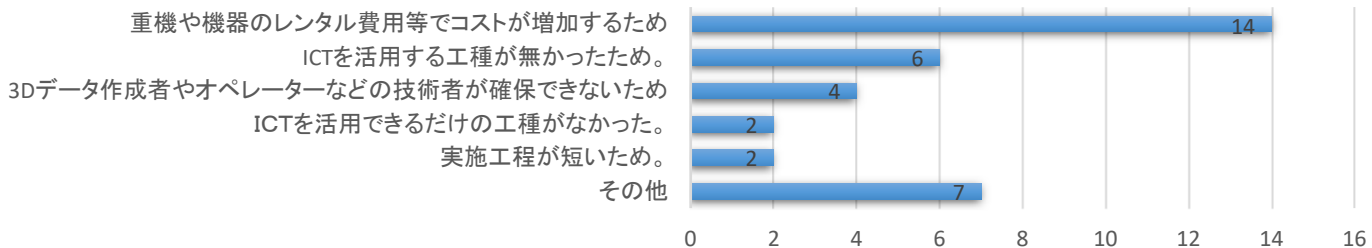
Q8：ICT活用工事のメリット（重複回答あり）



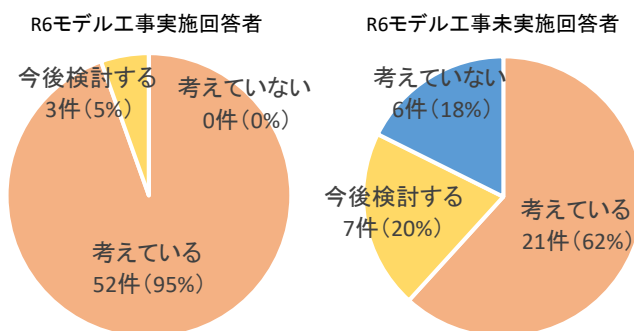
Q9：ICT普及に必要なこと（重複回答あり）



Q10：未実施の理由（重複回答あり）



Q11：ICT活用工事の今後の積極的な取組について



Q12：受注者意見

- ICT施工を一度経験すると従来施工には、もどれない。
- これからの時代は、作業員の高齢化が進むため人員の確保が今まで以上に困難となると予想されるので、ICT活用工事が主体となって進んでいかなければならないと思います。
- 小規模工事ではICTを活用し施工することは予算上困難である。また対応できる職員がいない。
- ICT施工を推進するためには技術者の育成が重要です。Web講習会など柔軟な学習コンテンツの提供やアドバイザー制度などの提案が必要と思われます。

【まとめ】

ICT施工については取組み意欲はあるものの、機器調達にかかるコスト面とICTの技術者不足の課題がある結果となった。
また、徐々にだが、定量的評価の軽減率からICT活用工事の有効性について浸透してきていることがわかった。